

## ◆ 2023 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：SDGs さいたま応援団

26A-38

代表者：代表 森 啓祐

URL :

### 1. 活動が必要とされた状況

プラスチックは私たちの生活に欠かせない物であるが、一方でプラごみの環境汚染は海洋だけでなく大気中や土壌でも進行しており、環境への悪影響はもはや見過ごせない状況にある。自然環境へのプラごみ流出を防ぐために、私達一人ひとりに何ができるか、何をすべきかを考えてもらい、実行へつなげるための啓発活動が必要である。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

(1) セミナー&写真展（助成対象事業） 於・武蔵野銀行本店 MsSQUARE

「プラスチックの環境汚染 ～今、私たちにできることは～」

①栗岡理子氏（環境ジャーナリスト）による講演  
（10/7） 受講者 43 名（一般参加者 36+会員 7）

②写真展  
（10/7～9）写真パネル 20 枚他展示と DVD 映写  
来場者 55 名（スタッフ在席時）+α



(2) その他の事業

①東大宮クリーンアップ大作戦（5/28）DVD 映写

②別所公民館 SDGs 教室（9/19）プラごみ問題講演

③サポートセンター「市民活動と SDGs 講座」  
にて活動報告（10/28）

④サポートセンター「中高生と語る SDGs プロジェクト」  
於埼玉栄高（11/18, 25）にて講義とワークショップ

⑤シニア・ユニバーシティ（1/23）にてプラごみ問題について講演（受講者 100 名）



### 3. 活動の成果

セミナー参加者、写真展来場者とも期待数を下回ったが、アンケートや聞き取りによると、昨年同様に感想は概ね好評であり、各自の気づきに役立ったと評価している。

セミナー及び当会作成のセルフチェックシートによってプラごみ削減のヒントを数多く提供できた。

写真展では、小6女子生徒二人の感想に象徴されるように、見て知ってもらう事が如何に効果的か改めて確認できた。

その他出前講座など啓発活動の多角化を行い、助成作成パネルの有効活用ができた。

### 4. 今後に残された課題

①セミナーについては実施日時、写真展については会場・期間の見直しを行い、関係団体との連携を図り、参加者を増やすことを目指したい。

②パネル等展示物の更なる内容充実が必要である。